

## 中央アジア関連研究文献リスト 2013

本リストは、2013年（1月～12月）に刊行された、原則としてイスラーム化以降の中国新疆および旧ソ連領のムスリム地域およびその周辺地域に関する学術文献をリストアップしたものである（理科系のものを除く）。原則的に、国内で刊行された、国内で活動する研究者による著作を中心とし、エッセイや事典項目等は除外した。ただし、本学会会員の著作については、海外刊行のものも一部含まれる。なお、各文献の副題はコロンつなぎで統一した。

## 書籍

アナトラ・グリジャナティ『中国新疆ウイグル自治区における少数民族双語教育に関する研究：富士ゼロックス株式会社小林節太郎記念基金 2009年度研究助成論文』富士ゼロックス小林節太郎記念基金（非売品）

伊東孝之監修、広瀬佳一、湯浅剛編『平和構築へのアプローチ：ユーラシア紛争研究の最前線』吉田書店（3,800円）

「資源小国のエネルギー政策：キルギスとタジキスタンから見た中央アジア」（稲垣文昭）

「中央アジアの政治変動：権威主義体制と選挙の多様性」（東島雅昌）

「日本とロシア・ユーラシア：私の経験的政策論」（袴田茂樹）

「日本にとってユーラシアとは：変化する国際環境と内政を見据えて」（湯浅剛）

などを所収

イブラヒム、アブデュルレシト（小松香織、小松久男訳）『ジャポニヤ：イブラヒムの明治日本探訪記』岩波書店（9,400円）

梅村坦、江上綏総合編集『図録 文字から見る歴史と文化：江上波夫蒐集品を中心に』山川出版社（3,500円）

「中国へ入った外来の文字」（梅村坦）

「満漢合璧文書・官印について」（承志、小沼孝博）

「新疆の文字」（新免康）

「中国の古地図とその作製意図」(小沼孝博)

などを所収

帯谷知可編『「トルキスタン集成」が拓く世界・1 (データベース化の課題と展望、その資料としての可能性)』京都大学地域研究統合情報センター (非売品)

「「トルキスタン集成」のデータベース化：その展望と課題」(帯谷知可)

「カザフ社会の近代化過程における宗教的儀礼へのまなざし：歴史資料への人類学からのアプローチ」(藤本透子)

「「トルキスタン集成」所収のバザールに関する資料について：現代ウズベキスタン地域研究との関連から」(宗野ふもと)

「「トルキスタン集成」に見るロシア領トルキスタンのワクフ研究」(中村朋美)

などを所収

帯谷知可編『「トルキスタン集成」が拓く世界・2 (帝政ロシアの植民地的「知」の中の中央アジア)』京都大学地域研究統合情報センター (非売品)

“Turkestanskjjsbornik as a Compilation of Colonial Knowledge: Focus on its Indexes” (OBIYA, Chika)

などを所収

加藤九祚『シルクロードの古代都市：アムダリヤ遺跡の旅』岩波書店 (800円)

川本正知『モンゴル帝国の軍隊と戦争』山川出版社 (3,150円)

菊田悠『ウズベキスタンの聖者崇敬：陶器の町とポスト・ソヴィエト時代のイスラーム』風響社 (6,000円)

嶋田晴行『現代アフガニスタン史：国家建設の矛盾と可能性』明石書店 (3,800円)

志茂碩敏『モンゴル帝国史研究正篇：中央ユーラシア遊牧諸政権の国家構造』東京大学出版会 (26,000円)

JICA 研究所アフガニスタン・プロジェクト・チーム『アフガニスタンに平和の礎を：人々の生活再建に奔走する日本人たち』丸善プラネット (1,600円)

SHINMEN Yasushi, SAWADA Minoru and Edmund WAITE, ed., *Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang*, Paris: Librairie d’Amerique et d’Orient, Jean Maisonneuve Successeur

“Towards a Classification of Mazars in Ferghana Valley” (SAWADA, Minoru)

“The Mazar of Qutayba ibn Musim: A Study of Oral Traditions and Historical Documents” (KAWAHARA Yayoi)

“Buzurg Khān Tora and his Mausoleum at the Katta Kenagas Village” (SHINMEN, Yasushi and KAWAHARA, Yayoi)

などを所収

中嶋善輝『カザフ語文法読本』大学書林 (5,000 円)

間野英二『パール: ムガル帝国の創設者』(世界史リブレット人 046) 山川出版社 (840 円)

## 論文

アナトラ・グリジャナティ「伝統的手工芸技術の継承過程について: ウイグルのビシュックを事例に」『国際教育文化研究』13, 63–72 頁

阿迪拉庫尔班、榎本弘行、佐藤信行「中国新疆ウイグル自治区における地方環境立法 (1)」『中央ロー・ジャーナル』10(3), 155–191 頁

アブドゥラフマン, ムフタル『幸福を与える智慧』における国家論: ウイグル哲学の頂点における理想的国家像『哲学論文集』49, 37–55 頁

安西俊彦、清水克之、北村義信 他「カザフスタン・イリ川下流域灌漑地区における地下水水位変動特性とその要因に関する研究」『農業農村工学会論文集』81(1), 51–56 頁

五十嵐徳子、雲和広「タジク女性の声: タジキスタンマイクロサーベイより」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』965, 2–25 頁

ISAHAYA, Yoichi, “The Tārīkh-i Qitā in the Zīj-i Īlkhānī: the Chinese Calendar in Persian” *SCIAMVS* 14, pp. 149–258.

石井祥子「モンゴルの鉱山町ナライハにおけるカザフ伝統文化とイスラム信仰の復興」『共生の文化研究』8, 22–25 頁

イスマンバエヴァ・ジイベック (富樫耕介訳)「クルグズ(キルギス)共和国における鉱物資源の可能性とグローバル化の中でのその重要性」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』975, 2–13 頁

磯貝健一「近代中央アジア・イスラーム法廷文書の世界」『歴史と地理』661, 21–30 頁

稲垣文昭「タジキスタンとロシア関係」『国際情勢紀要』83, 173–184 頁

稲垣文昭「科学技術と中央アジア: 電力インフラ整備から見た中央アジアの国際関係」金沢工業大学国際学研究所編『科学技術と国際関係』内外出版, 255–283 頁

稲垣文昭「転回する中央アジア空間: 新家産制化する中央アジア」市川顕、稲垣文昭、奥田敦編『体制転換とガバナンス』ミネルヴァ書房, 111–141 頁

岩崎一郎「中央アジア第二次産業の長期発展経路: 百年統計の構築と比較経済分析」『アジア経済』54(1), 2–46 頁

岩間陽子「同盟と国家建設: NATO とアフガニスタン」『国際政治』174, 125–138 頁

植田暁「帝政ロシア支配期のクルグズの社会経済的変容: フェルガナ州における天水農耕の

- 普及を中心に」『内陸アジア史研究』28, 101-126 頁
- ウフル, ロシヤングリ「中国における森林資源の最適管理政策：新疆ウイグル自治区を事例として」『国際開発研究』22(1), 1-12 頁
- ウラコワ, マハバット、富樫耕介「クルグズ（キルギス）共和国における「二度目の革命」はなぜ生じたのか：革命の経緯・要因の再考」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』974, 33-48 頁
- ウラコワ, マハバット「独立後のキルギス（クルグズ）共和国に対する国際援助：援助はキルギスを豊かにしたのか」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』975, 26-43 頁
- 大倉忠人「社会のセーフティ・ネットとして機能するキルギスの地域コミュニティ」『地域イノベーション』5, 125-136 頁
- 大倉忠人「キルギス人の経済観形成に係る一考察：キルギス民族の歴史から」『公共政策志林』1, 127-142 頁
- 大倉忠人「なぜナレン市民は立ち上がったのか：革命勃発の端緒と文脈に関する一考察」『法政大学大学院紀要』71, 193-208 頁
- 太田典典「中央アジアウズベキスタンの陶芸：原料からみるリシトン“青の陶芸”の意味」『アジア民族造形学会誌』13, 85-98 頁
- 岡田晃枝「タジキスタン：ロシアへの複雑な思い」『地域研究』13(2), 393-399 頁
- 岡奈津子「カザフスタンにおける日常的腐敗：フィールドワークに基づく考察」『アジア研ワールド・トレンド』209, 37-42 頁
- 岡奈津子「父祖の地を目指して：カザフスタンに『帰還』する在外カザフ人」『アジア研ワールド・トレンド』216, 27-33 頁
- OKA, Natsuko, “A Note on Ethnic Return Migration Policy in Kazakhstan: Changing Priorities and a Growing Dilemma,” IDE Discussion Paper (<http://www.ide.go.jp/English/Publish/Download/Dp/index.html> で公開) No. 394
- 小野亮介「(書評) 松原正毅著『カザフ遊牧民の移動：アルタイ山脈からトルコへ 1934-1953』」『アジア経済』54(4), 188-192 頁
- 小沼孝博「ヌサン使節の派遣：1757年における清とアブライの直接交渉」『アジア文化史研究』14, 1-20 頁
- 小沼孝博、新免康、河原弥生「国立故宮博物院所蔵 1848年コーカンド文書再考」『東北学院大学論集・歴史と文化』49, 1-24 頁
- 帯谷知可「ウズベキスタン：中央アジア近現代史に思いをはせながら」『地域研究』13(2), 381-386 頁
- 角張嘉孝「タジキスタン国における温暖化防止のための森林保全調査研究：JSPS-JICA 科学

- 技術研究員派遣事業による調査」『海外の森林と林業』88, 3-8 頁
- 狩野良昭「アフガニスタン稲作振興支援プロジェクト (RIPA)」『国際農林業協力』36(4), 2-9 頁
- カリモヴァ・オミナ、木之下健一「ウズベキスタンにおける言語的少数派擁護の取り組み」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』967, 37-49 頁
- カル・モハマト・アハマトザイ、豊田隆「アフガニスタン農村における貧困と生計の多様化：アフガニスタントハル州ヤンギ・カラ地区における事例研究」『開発学研究』24(2), 42-51 頁
- 川口琢司、長峰博之「ジョチ・ウルス史再考」『内陸アジア史研究』28, 27-51 頁
- 川口琢司「ティムールの冬営地と帝国統治・首都圏」『史学雑誌』122(10), 1-38 頁
- 河野明日香「ウズベキスタンにおける成人教育と国際支援：DVV International の実践とネットワークの事例を通して」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 教育科学』60(1), 39-48 頁
- 川端良子「アラル海の消失とその再生に向けて」『季刊民族学』37(3), 60-65 頁
- 菊田悠「ウズベキスタン東部地方都市における聖者崇敬の現在：ムスリム陶工のピール崇敬」『文化人類学』77(3), 361-381 頁
- KINOSHITA, Kenichi, “Yaponiya va O’zbekistonda huquqiy ta’limning o’ziga xos xususiyatlari,” *Konstitutsiya - demokratiya va ijtimoiy adolat mezonlari - mavzusidagi to’plam*, Mas’ul muharrir : Alimov, F., Toshkent: Nizomiy nomidagi Toshkent davlat pedagogika universiteti, 65-69 betlar
- 居来提熱依木、草苺仁「新疆における農村の都市化と経済発展」『農林業問題研究』49(2), 381-384 頁
- 窪田順平「中央ユーラシアの人間と自然の相互作用の歴史的変遷：地球研・イリプロジェクトの成果から」『沙漠研究』23(3), 129-135 頁
- 窪田順平「社会の流動性とレジリエンス：中央ユーラシアの人間と自然の相互作用の総合的研究の成果から」『史林』96(1), 100-127 頁
- 倉田亮「世界遺産の水環境 (46) ウズベキスタンの文化遺産の水環境：サマルカンドとブハラ, 消えゆくアラル海の現状」『用水と廃水』55(11), 787-798 頁
- 河野敦史「18 ～ 19 世紀における回部王公とベク制に関する一考察：ハーキム・ベク職への任用を中心に」『日本中央アジア学会報』9, 19-48 頁
- 河野桂子「アフガニスタン戦争と付随的損害：武力紛争法上の評価」『上智法学論集』56(4), 219-253 頁
- 斎尾恭子「中国西域の食：シルクロードのパンと麺 (続編)」『愛国学園短期大学紀要』30, 25-40 頁

- 櫻間瑛「多・民族共和国の葛藤: タタール語歴史映画『ジョレイハ』を手がかりに」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』969, 23-33 頁
- サブルベコフ, ラハット(富樫耕介訳)「クルグズ(キルギス)共和国に対する外国投資の分析」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』975, 14-25 頁
- 澤井充生「イスラームと現代中国: 宗教管理機構と清真寺のポリティクス」瀬川昌久、川口幸大編『現代中国の宗教: 信仰と社会をめぐる民族誌』昭和堂, 129-153 頁
- 澤井充生「日本の回教工作と民族調査: 戦前・戦中期の内モンゴルを中心として」『人文学報』468 (社会人類学分野第6号), 55-86 頁
- 塩谷哲史「教育研究報告 中央アジア特別プログラム (日本研究プログラム) の歩み」『国際日本研究』5, 87-91 頁
- シャオケイテイ アジ、近藤昭彦「1949年～2008年における新疆の食糧生産の時空間的な変化とその要因解析」『沙漠研究』23(2), 51-57 頁
- 鈴木均「ターリバーンとの交渉不調もアメリカは撤退戦略を優先」『アジア動向年報』2013, 574-590 頁
- スヘー・バートルガ「モンゴル西部カザフ集住県におけるイスラム信仰と伝統文化の復興」『共生の文化研究』8, 26-30 頁
- スルタン, T.、ゾリカフィリ, M. (島村一平他訳)「翻訳 モンゴル国のカザフ人の歴史」『人間文化: 滋賀県立大学人間文化学部研究報告』34, 83-95 頁
- 関啓子「変わりゆくタタルスタン: 新たな「民族」アイデンティティの構築に向けて」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』969, 13-22 頁
- 宗野ふもと「合い間の仕事としての手織り物生産: ウズベキスタンにおける社会変容と女性」『アジア・アフリカ地域研究』13 (2), 212-248 頁
- 相馬拓也「アルタイ=カザフ鷹匠たちの狩猟誌: モンゴル西部サグサイ村における騎馬鷹狩猟の実践と技法の現在」『ヒトと動物の関係学会誌』35, 58-66 頁
- 竹村寧乃「ザカフカス連邦ヴェセンハは必要か?: 一九二〇年代のソ連における経済機関と民族問題」『ロシア史研究』92, 24-42 頁
- 田中周「民族名称「ウイグル」の出現と採用」鈴木隆、田中周編『転換期中国の政治と社会 集団 (WICCS 研究叢書2)』国際書院, 181-207 頁
- 地田徹朗「地域環境史研究の可能性: ソ連時代のバルハシ湖流域での水利開発と史資料」中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社, 298-319 頁
- 地田徹朗「アラル海救済の現代史: 『20世紀最大の環境破壊』の教訓」大塚健司編『長期化する生態危機と環境ガバナンス (アジア経済研究所 調査研究報告書 2012-C-36)』23-48 頁

- 地田徹朗「小アラル海漁業の現在：湖水位の回復とその後」『アジア研ワールド・トレンド』  
214, 23-27 頁
- チャガイ・アリョーナ「ウズベキスタンのコリョサラムのロシア首都圏への移動とその原因：ソ  
連時代末期～2011年」『ククロス：国際コミュニケーション論集』10, 17-31 頁
- 富樫耕介、ウラコワ、マハバット「移行期のクルグズ（キルギス）共和国の現況：内と外か  
らの点描」『ユーラシア研究』48, 50-55 頁
- 中馬瑞貴「カザフスタンのイノベーション政策」『ロシア NIS 調査月報』58(4), 35-42 頁
- 中西健「クルグズスタンにおける民族関係：ロシア人、ドゥンガン人、ウズベク人とクルグ  
ズ人との関係を中心に」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』974, 19-32 頁
- 長縄宣博「ロシア・ムスリムがみた 20 世紀初頭のオスマン帝国：ファーティフ・ケリミー『イ  
スタンブルの手紙』を読む」中嶋毅編『新史料で読むロシア史』山川出版社, 92-110 頁
- 長縄宣博「近代帝国の統治とイスラームの相互連関：ロシア帝国の場合」秋田茂、桃木至朗  
編『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会, 158-184 頁
- 中屋昌子「中国における「イスラーム復興」と宗教統制について：新疆ウイグル自治区の事  
例から」『イスラム世界』80, 1-42 頁
- 西原明史「生き延びるための学びに向けて、今、人類学にできること：ウイグル族における  
共生の倫理から」『安田女子大学紀要』41, 125-138 頁
- 野田仁「帝国の境界を越えて：露清間の境域としてのカザフ」『歴史学研究』911（増刊）,  
10-18 頁
- 日高晋介「ウズベク語：補遺データ（受動表現、ヴォイスとその周辺、モダリティ）」『語学  
研究所論集』18, 467-485 頁
- 廣田千恵子「カザフの伝統的手芸技法：モンゴル国バヤン・ウルギー県の事例から」『千葉  
大学ユーラシア言語文化論集』15, 131-149 頁
- ベウプトヴァ, エルス（富樫耕介訳）「中央アジアとクルグズスタン（キルギス）における  
紛争の要因」『ロシア・ユーラシアの経済と社会』974, 7-18 頁
- HORI, Sunao, "A Reconsideration of the Yarkand Document in the Ōki Collection" The Toyo Bunko,  
pub., *Memoirs of the Research Department of The Toyo Bunko*, (70), pp. 79-109.
- マソティ, シェリンアイ（希日娜依・買蘇提）「新疆ウイグル自治区におけるウイグル語と  
漢語の言語接触について：2010 年における調査の紹介を中心に」『日本中央アジア学会報』  
9, 49-59 頁
- 丸山鋼二「新疆ハミ地方のイスラーム化：中国新疆イスラーム教小史(6)」『文教大学国際学部紀要』  
23(2), 59-75 頁
- 村主道美、小野瑞絵「急進的イスラーム主義と「国家」の独立：ザワヒリの幻想と、北コー

- カサス・チェチェン共和国」『学習院大学法学会雑誌』49(1), 211-258 頁
- 吉田達矢「戦前期の名古屋におけるタタール人の諸相：人口推移と就業状況を中心に」『名古屋学院大学論集 言語・文化篇』24(2), 281-291 頁
- 吉田達矢「戦前期の名古屋におけるタタール人の諸相 (2):名古屋回教徒団とイデル・ウラル・トルコ・タタール文化協会名古屋支部の活動を中心に」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇』50(1), 15-34 頁
- 米山正博「アフガニスタン国農業灌漑牧畜省組織体制強化プロジェクト（農業研究・普及支援）」『国際農林業協力』36(4), 25-31 頁
- 羅郁重（西脇隆夫訳）「翻訳 最初の漢語訳断片「マナスの誕生」」『名古屋学院大学論集 人文・自然科学篇』49(2), 57-73 頁